

(別紙 12)

山形県におけるクマ類の保護・管理に係る専門人材の育成に係る
計画/評価報告

1 クマ類の保護・管理に係る専門人材や認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

第4期山形県ツキノワグマ管理計画によると錯誤捕獲された場合、原則放獣することとしている。令和4年度から開始した調査によると県内の錯誤件数は、R4:83件、R5:136件となっており、ほとんどが安全な放獣が確認できていない。
また、令和7年に入ってからクマの市街地出没も3件確認されている。
この状況で、安全に不動物化や放獣をする麻酔を使用できる人材が必要であるが、県内で十分な実績がある人材は1人となっており、県内全域に対応できない。
県内で唯一登録されている、認定鳥獣捕獲等事業者等は、活動範囲が限られていることから、不動物化及び放獣に対応できない。

2 1の課題等に対応するための取組内容

実施時期	令和7年6月～令和8年1月
場所	座学：寒河江市中央公民館 現地におけるOJT：山形市（1回目）、山辺町（2回目）
目的	麻酔銃を用いた不動物化及び放獣を担える人材の育成
対象者・講師 （人数も記載）	対象者： 座学 麻酔銃所持者（予定含む）及び関係者（45名） 現地におけるOJT 麻酔銃所持者（従事者等含む）（5名） 講師：岐阜大学浅野教授、合同会社東北野生動物保護管理センター、県
内容	座学： 不動物化の概念、法令関係、放獣体制、麻酔などの薬剤に関する知識 現地におけるOJT： 県内各市町村の錯誤捕獲時に臨場により実施
方法	座学及び現地におけるOJTにより実施
評価方法	県補助金を利用した麻酔銃購入者（2名）の現場実装
事業費	1,252,700円
備考	特になし

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や事業効果の測定方法等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価報告時のみ）

【評価】

座学については、麻酔銃所持者だけでなく、現場で不動物化及び放獣を支援する行政職員や実施隊などにも参加を促し、現場対応を担う関係者が安全に放獣できる体制について知識を深めることができた。

現地における OJT については、クマの出没が例年になく多く放獣可能な事例が極めて少なかったものの、事前に錯誤捕獲時に麻酔銃による不動化対応が可能かどうかの判断基準や連絡体制を構築したことで、OJT のできる現場の確保や関係者への連絡などスムーズに行うことができた。また、講師の指導の下、いずれの事例も不動化は一発では成功しなかったものの、手順の確認を確実に行うなど、安全に不動化することができた。なお、1 回目はツキノワグマ、2 回目はカモシカでの対応であり、1 回目は不動化の後に止めさしを行った。

【課題】

県内における錯誤捕獲の対応が可能な麻酔銃所持者が 1 名から 3 名になったものの、具体的な運用についてはこれから関係者間での調整が必要となる。また、麻酔銃の取得について今後も県で購入の補助等支援していくことから、新たな取得者が生じた際には、改めて同様の研修会を開催するなど技術向上の場を創出することが必要となる。

注 1：1 の課題及び 2 の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の検証結果を具体的に記入すること。

注 2：注 1 による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。また、評価を通じ明らかになった専門人材や認定鳥獣捕獲等事業者等の育成の課題等についても記入すること。

4 その他

特になし

注：特記すべき事項があれば記入すること。